

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。年に8回程度の発行を予定しています。

◆ [第2回 南都留教育相談ネットワーク会議]

12月11日(水)に今年度2回目となる富士・東部教育事務所管内の教育相談に携わる方々の「教育相談ネットワーク会議」が、南都留合同庁舎で開催されました。この会議は、事例研究や相談業務の実情等の情報交換をしながら、問題を抱える子ども、家庭を支援するために協力・連携していくことを目的としています。今回は、富士・東部教育事務所のスクールソーシャルワーカーから「スクールソーシャルワーカーの予防的視点」、富士吉田市立教育研修所の自立支援指導員から「教育支援室における相談活動の現状と課題」、富士・東部保健福祉事務所の健康支援課から「富士・東部保健福祉事務所の業務について」、県立ふじざくら支援学校の地域支援部の担当から「地域支援部の活動について」の実情報告がされ、それぞれが抱えている課題などの情報交換も交えながら研究協議が熱心に行われました。地域をはじめ各機関のネットワークの必要性を再確認する有意義な会議となりました。



◆ [都留市・西桂町地域の「中・高連携連絡会議」]

12月13日(金)に「生徒の健全育成をめざす中・高連携連絡会議」が、南都留合同庁舎の第一会議室を会場に、中学校と高等学校、県教育庁新しい学校づくり推進室の担当者合わせて20名ほどが出席して開催されました。この会議は、今年度で13回目を数える旧都留学区内の中学校と高校を対象としたものです。地域の生徒の健全育成のため、各学校の生徒指導に関する状況や課題、具体的な取り組み等について情報交換を行い、今後の中・高連携の在り方やその方向性等を探るものです。



各学校の課題や具体的な取り組みなどの情報交換や授業・部活動・課外活動を含めた今後の中・高連携の具体的な在り方等について各校から発表され、その後質疑応答及び意見交換が積極的に行われました。

◆ [上野原高校 第3回総合学科発表会]

12月21日(土)に上野原高校(清水 澄校長)では、上野原市の教育長をはじめ、教育行政の方々、高等学校・中学校の校長先生方、学校関係者などの来賓を迎え、また、中学生、保護者などが多数訪れるなかで第3回総合学科発表会が行われました。開会行事の後、生徒による総合学科の紹介があり、生徒の発表に移りました。生徒の司会進行により、発表Ⅰの1年次生による「ドリームスピーチ」、発表Ⅱの2年次生の「インターンシップについて」、発表Ⅲの3年次生の「郷土研究」の発表が行われました。いずれの発表も学習の成果をしっかりとった言葉でわかりやすく発表しており、プレゼンテーション能力の質の高さを感じました。生徒の発表の後、教頭先生、上野原高校「育てる会」会長、代表生徒4名をパネラーとして「上野原市への提言」というテーマでのパネルディスカッションが行われました。最後に全校生徒による福島県民謡『会津磐梯山』の迫力のある素晴らしい合唱が披露され、来場者を魅了していました。



◆【ひばりが丘高校 公開授業】

ひばりが丘高校（安藤 昇校長）では、1月23日（木）・24日（金）と第3回授業公開が昼間部、夜間部それぞれで行われ、保護者、学校評議員、教育関係者等が、生徒たちが真剣に学習に取り組む姿を参観しました。各授業では、少人数学習の形態を取り、一人ひとりの生徒の学力面・精神面の成長を願いながら、学習内容の確実な定着を図るために綿密な計画のもと、丁寧で工夫された授業が展開されていました。各授業とも、先生方が生徒にとって「わかる授業」を心がけて、一生懸命に授業を行っている様子が見て取れました。また、生徒とできるだけコミュニケーションをとりながら、生活場面や身近な問題と関連させながらのポイントを押さえた授業に、生徒たちも引き込まれるように熱心に取り組んでいた姿が印象的でした。

◆【谷村工業高校 教育実践公開発表会】

谷村工業高校（手塚芳一校長）では、2月1日（土）に都留市うぐいすホール・大ホールにおいて、山梨県教育委員会、山梨県立産業技術短期大学の先生方、行政の方々、学校関係者などの来賓を迎え、また、中学生、保護者などが多数訪れるなかで教育実践公開発表会が行われました。校長先生から「今年の4月から谷村工業・桂高校が統合する形での都留興譲館高校が開校になる。それに向け両校の学校間連携が求められているということもあり、今年度は桂高校の生徒にも発表をお願いしました。」等のあいさつの後、生徒の司会進行により、先ず、1年生による「インターンシップ実践発表」、2年生の「沖縄修学旅行」の順で教育実践が発表されました。次に、今年度はじめてとなる桂高校生による「ぴいちゃんのルーツ～発生のしくみ3～」の教育実践の発表がありました。後半は、3年生の4学科5コースの3カ年の専門教科の集大成ともいえる、「課題研究」の発表がありました。各発表（建設科・電子情報科・デザインコース・環境化学コース・機械システム科）とも、学科・コースの特性を生かした専門性の高い内容でした。教育実践発表・課題研究発表とも、学習の成果をしっかりとった言葉でわかりやすく発表しており、プレゼンテーション能力の高さを感じました。



◆【都留高校 公開研究授業・SSH研究発表会】

2月13日（木）に都留高校（志村憲一校長）で公開研究授業及びSSH研究発表会が行われました。1・2校時「Super 数学Ⅰ、Super 化学Ⅰ」、2・3校時「科学英語のJSPSフェロー講演会」が公開され、SSH運営指導委員、学校評議員等の学校関係者、地域の中学校・高校関係者、県教育委員会の方々などが参観しました。各授業での生徒の様子は、科学分野に対する好奇心が旺盛で、主体的・積極的に授業に臨んでいました。

午後からは、生徒による「SSHグループ研究・ポスターセッション」が行われ、数学・物理・化学・生物・地学班の継続的な研究、地域の特色を生かした研究など1年間の研究成果が発表されました。次に、二人の生徒による英語での「課題研究の発表とSSHについてのスピーチ」の代表発表がありました。

最後に「Super Scienceの評価、SSH事業の評価」を含めた研究報告が行われました。研究報告会では、SSH研究指定校として今年度で2期9年目を迎え、高大接続を意識した理数科目の授業、最先端の科学技術に触れられる科学講座・フェロー講演会や大学・研究機関への訪問研修、科学系クラブの活動、地域の小・中学生や他校の高校生との交流活動等に積極的に参加していること等が報告されました。こうしたSSH事業における教育活動が、生徒の科学への興味関心を高めることは言うまでもなく、学習の動機付けをはじめとして、グループ・個人研究のレベルアップ、科学リテラシー・コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上、人間力の育成、進路決定や将来の人生設計にも繋がるキャリア教育面での充実等に大きな効果をもたらしているのだと感じました。

